ぼくらのはつゆめ

園児に聞いた 未来の海老名

昭和六十年の幕あけに、未来の海老名市はどんなまちになっているのか勝瀬保育園の園児たちに聞いてみました。

すると、「昆虫がいっぱいいるまち」「お花がたくさん咲いているまち」といった答がある一方、「車の音がしないまち」「交通事故がないまち」といった現実的な答も返ってきました。

そこで、これらの答をもとに園児たちが未来の海老名市を描きました。自動車やオートバイは全部地下の専用道路を走り、地上は自然と遊び場がいっぱいの楽園、これが園児たちの初夢だそうです。

広報 えびな

昭和60年1月1日　第332号

発行・海老名市役所・海老名市国分155／編集・秘書広報課／電話・31—2111（代）／〒243—04

毎月1日・15日発行

世帯と人口

昭和59年12月1日

世帯	28,090世帯	(＋ 51)
人口	91,097人	(＋106)
男	46,784人	女 44,313人

新春に!! こぞって参加

新春を迎え、来客やあいさつ回りと忙しい中、おとそ気分もいまだ抜けやらぬ、といったところではないでしょうか。視線を外に向ければ一月はいろいろな催しが計画されています。親子で参加する企画もあれば、自らの体力の限界に挑戦するもの、チームの健闘に声援を送るものなど盛りだくさんです。ここでは主なものを紹介いたします。いちど参加してみてはいかがでしょうか。

親子そろってジャンボカルタに突進

海老名市駅伝競走大会
1月6日

一月六日に市駅伝競走大会が行われます。今年から市内を一周する六区間、二十五・八キロに変更されました。柏ケ谷小学校を午前九時半にスタート。今泉小学校（9時49分）、雪印乳業（10時3分）、門沢橋自治会館（10時16分）、根公民館（10時25分）、豊受神社（10時39分）を中継し、ゴールは市役所（10時56分）となっています。

この大会は、自治会対抗、事業所対抗、中学校対抗、女子対抗の四部門に分けられ、すばらしいレースが予想されます。盛大な応援をお願いいたします。

（）内は先頭通過予定時刻。

親子ジャンボかるた大会
1月12日

一月十二日午後一時半から社家小学校校庭で親子ジャンボかるた大会が開催されます（雨天の場合は一月十三日に順延）。この大会は、親子が一緒に手をつなぎ、協力しながら郷土かるたのジャンボ版（ベニヤ板の手分）を取り合うものです。

参加対象者は市内在住の親子百組で先着順となっています。申し込みは一月十日までに電話で社会教育課（内252）へ。

消防出初め式
1月14日

一月十四日午前九時半から市文化会館前の市民広場で、新春恒例の「消防出初め式」が行われます。

この消防初め式は、市内全消防団員を始め市消防職員、自衛消防隊員が一堂に集まって、今年一年間、火災などから市民を守ろうと誓い合うものです。また、この式で永年消防団員として尽くされてきた方の表彰と去年、早期発見・初期消火で消防に協力された方の表彰を行います。

また、自主防災組織による初期消火訓練、消防署・消防団による消防面も行いますので、市民のみなさんのご観覧をお願いします。

なお、当日午前七時に市内消防施設のサイレンを一斉に鳴らしますので火災と間違えないようお知らせします。

成人式
1月15日

一月十五日午前九時から成人式が市文化会館で行われます。対象は三十九年四月二日から四十年四月一日の間に生まれた市内在住の方です。対象者は十月一日現在で男七百十四人、女六百七十五人の合計一千三百八十九人でハガキでお知らせいたしました。

なお、ハガキがいかなかった方でも対象者であれば参加は可能です。

当日は九時受付、九時半からアマチュアバンドによるアトラクション、十時から十二時までが式典となっています。

華美ならない服装で参加してください。問い合わせは社会教育課（内253）へ。

高座一周駅伝競走大会
1月20日

一月二十日、高座一周駅伝競走大会が行われます。海老名市、座間市、綾瀬市、寒川町のハチームで競うものです。大会は午前九時に海老名市役所をスタート。海老名農協南支所前（9時16分通過予定）、寒川町役場北、小動神社前、綾瀬市役所前、大塚本町給油所前、座間公民館前を中継する七区間四十・三キロ。ゴールは海老名中学校で、予定時刻は十一時です。

去年も好レースが転回された駅伝競走

市長随想

新春に思う

明けましておめでとうございます。良き年をおお迎えのことと拝察申し上げます。

ことを祝い、おせちをつまむ、それぞれ違いはあるかと思いますが、新年への展望を語り、人生の一節を大事に、心を新たにするのが正月かと思います。

海老名市はまだまだ若い未完成都市ですが、立地条件に恵まれ大きな可能性を秘めております。これを現実なものとしなければなりません。生活に便利なゆとりのある、自然と利便性との調和のとれた他に誇れるまちを目指し、計画的に進めています。

この計画が「海老名市第二次総合計画」です。六十年度は前期計画の終わりの年であり、また後期五年の計画を策定する年でもあります。五年間に実現しなければならない施策、将来の展望に立って今から準備する施策と、選択をしながら作業を進めたいと考えております。

多様化している現在、今の経済状況の中で困難も多いとは思いますが、市民の方々との連帯の中で、必ずすばらしいまちはできたがっていくと確信いたします。昭和六十年も地域コミュニティーの中で納得と合意の行政を進めてまいりたいと思います。

市長　左藤　究

情報コーナー

催しもの

◆青空市は一月13日・20日①一月13日（日）市役所（豚汁サービスあり）②一月20日（日）国分寺台第二団童公園。時間はいずれも早朝から。出品予定はハクサイ、大根、長ネギ、キャベツ、サトイモ、ニンジン、ホウレンソウ、サツマイモ、カリフラワー、ジャガイモ、鶏卵（市役所のみ）、鉢物など。問い合わせは農産課（内321）。

〈注意〉青空市の防災無線によるお知らせは、今年から行いません。

募集

◆市立保育園の4月入所児童　募集保育園は柏ケ谷保育園（東柏ケ谷二一一四六）、門沢橋保育園（門沢橋七七〇）、下今泉保育園（下今泉四八七）、中新田保育園（中新田一二一二一一）、勝瀬保育園（勝瀬八七）。入所資格は次のいずれかの理由で学齢前の児童が保育に欠ける場合（家庭内で母親以外に児童の保育が出来る人がいる場合を除く）①母親のいない家庭②母親が家庭内外で働いている③その他、家庭で児童の保育ができない。受付期間・場所は一月25日～一月30日（各園ごとに指定日あり）、午前9時～11時半、午後1時～4時（26日は11時半まで）。市役所第一会議室で。申し込みは事前に福祉課に用意してある必要書類を準備し、当日は児童をつれて申し込む。問い合わせは福祉課（内437）。5月以降の入所につい

情報は秘書広報課へ

長期営農継続農地などの認定申告は

1月31日までに

市街化区域で農耕が継続される農地

長期営農継続農地の認定申告

市街化区域における農地で、三・三平方メートル当たりの評価額三万円以上のものについては、現在宅地並み課税の対象になっていますが、昭和五十九年中に次の①～⑤の理由で新たに宅地並み課税対象農地を取得された方は、長期営農継続農地の認定の申告をすることができます。

①相続により農地を取得した場合　②収用・交換などにより認定土地を譲渡した方が代替地（農地）を取得した場合　③農地法第三条の許可を得て農地を取得した場合　④地目変更により新たに市街化区域農地になった場合　⑤その他

申告方法は、資産税課にある長期営農継続農地認定申告書に必要事項を記載して、一月三十一日までに市農業委員会に提出してください。

宅地の使用状況変更申告

宅地を持っている方で、昭和五十九年一月二日から昭和六十年一月一日までに住宅を新築、または取り壊された方は「宅地の使用状況変更申告書」を、一月三十一日までに提出してください。

これは、一月一日現在の宅地の使用状況（住宅用地と非住宅用地に分けられる）によって、昭和六十年度の固定資産税額が異なるためです。

申告方法は、資産税課にある申告用紙に必要事項を記入して同課に提出してください。

問い合わせは、資産税課（内351）。

今月のプロフィール

17歳・青春のダンサー

全国舞踊大会で入選　一見（いちみ）一幸（かずゆき）さん

「モダンバレエは言葉を使わなくても自由に自分を表現できます。芸術の中で一番だと思っています。自分の人生をかけられるものだし、誇りを持っています」と語る一見一幸さん（七）は、十二月一日に秋田市で行われた秋田県舞踊祭全国舞踊コンクールに参加し、井上あゆみさん（本郷、16歳）、田保知里さん（本郷、17歳）と一緒に演じた「三本のローソク」で一位、さらに一人で演じた「スタート」で三位入賞を果たした。

モダンバレエとの出会いは四年前にさかのぼる。中学に入ってから俳優を目指して演劇学校に通った。演技の幅を広げようと、二年の時に厚木（現在は海老名市）でモダンバレエ教室を開いていた瀬河地恵子さん（三七）の門をたたいた。

「先生にお会いして、モダンバレエのすばらしさを知り、ぼくの将来はこれだと思いました」

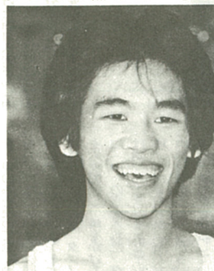
それから猛練習が始まった。週四日はレッスンに通い、帰ってきても自宅で一日三時間の練習。ご両親も二見さんの熱心さに打たれ「男が一度決めたことなら最後までやりなさい」と激励、自宅応接間に練習用の鏡と棒をつけ練習室に改造するなど協力を惜しまなかった。

情熱と地道な努力でどんどん上達し、去年三月に開かれた東京新聞主催の「全国舞踊コンクール」に初参加で入選を果たした。そしてその年の夏、瀬河地恵子さんがパリ夏期大学でモダンバレエの講師を務めることになり、二見さんはアシスタントに選ばれて三か月間渡仏した。この経験が二見さんをさらに成長させ今回の秋田での活躍となった。

前途洋々たる二見さんの目標は「日本ではまだモダンバレエは知られていない。そこで日本にバレエを広げようというのではなく、世界を目標にやってゆけば、自然と日本でも広がってゆくのではないかと思っています」と望みは大きい。

五月には市文化会館での公演も予定されているという。

本郷在住。両親と妹の四人家族。


目標は世界で活躍するダンサーに

スコア・ブック

◇市総合体育大会空手道大会（11月23日、海老名小学校体育館）

▽少年有級者初級の部（5級以下）＝①岩渕珠恵②宮崎学③市原知亮

▽同一級の部（2級～4級）＝①小倉郁郎②清水大路③木ノ内智

▽同上級の部（1級）＝①三川宏②山本美香③寺田辰夫

▽少年有段者の部（初段以上）＝①寺田由子②戸塚義治③髙田真一

▽少年組手の部＝①杉本卓也②三川宏③野毛誠一

▽一般型の部＝①茂多野元②加瀬順一郎③松田好申

▽一般組手の部＝①加瀬順一郎②加瀬龍志③岩崎克之

◇市秋季硬球大会（11月18日、中新田小体育館）

▽男子の部＝①石田・二見組（国分寺台クラブ）②赤沢・宮本組（海老名クラブ）③杉山・馬蜂組（国分寺台クラブ）、関・村上組（日立精工）

▽女子の部＝①佐藤・須田組（国分寺台クラブ）②河野・高橋組（みづほ）③前田・君島組（海老名高）、安藤・岡本組（サンクラブ）

▽ミックスの部＝①石田・佐藤組（国分寺台クラブ）②竹森・石川組②二見・須田組（国分寺台クラブ）、蛭田・蛭田組（協会）。

プレイ・ガイド

第6回海老名寄席（精選名人会）

出演　古今亭志ん朝、柳家小三治
　　林家こん平（ほか）

3月17日（日）午後2時開演、市文化会館。
入場料はA席1,500円、B席1,000円（全席指定）
団体割引あります。前売り開始1月13日（日）
午前9時から電話予約は午後1時から。
主催　海老名市・市文化会館事業協会
（☎32・3231）

12月価格情報

（単位：円）

品目	単位	大型店 平均価格	大型店 最多価格	中小店 平均価格	中小店 最多価格
しょう油	パック1ℓ	257（2）	248	265（0）	258
みそ	袋入1kg	356（21）	358	294（▲8）	318
砂糖	白1kg	260（▲10）	268	273（6）	290
マーガリン	パック225g	179（▲3）	178	191（13）	185
サラダ油	ボリ700g	393（81）	398	374（63）	－
マヨネーズ	ボリ500g	330（▲1）	338	333（0）	350
小麦粉	薄力粉1kg	240（▲2）	－	219（7）	208
牛乳	パック1ℓ	200（4）	208	208（2）	198
鶏卵	M10個	213（▲5）	－	208（5）	200
豚肉	もも100g	173（－）	178	179（－）	170
無リン合成洗剤	箱入2.65kg	910（0）	910	898（10）	910
粉石けん	袋入3kg	880（42）	910	868（104）	890
灯油	配達18ℓ	－（－）	－	1400（▲36）	1350

価格は、市消費生活モニター30名の協力を得て12月初めに調査した通常平均価格です。　（　）内は前年同月比で▲は安。

消費者の声　寒に向かい、灯油が安値安定しているので助かります。

生活用品交換情報

◇◇

◇◇

◇◇

フォトピックス

これでひと安心

一人暮らし老人の家の安全点検

室内の電気や火気の点検を済ませて安心してお正月を迎えてください――十二月十日から五日間、市内の六十五歳以上の一人暮らし老人百二十六人を対象に安全点検が行われた。

この点検は東京電力厚木営業所、市消防本部、市福祉事務所が三人一組のチームを編成して一人暮らし老人の家を訪れ、プロパンガスやストーブ、漏電などの検査や電気器具の簡単な修理、相談を行ったもので今年で二回目。

期間中は一日平均二十五軒を訪れたが、点検結果はおおむね良好。ただし、有効期間が過ぎた消火剤が入ったままの消火器が目立ったそうだ。

安全器は大丈夫

点検を受けた西村久栄さん（中新田、80歳）は、「電気機器など私ひとりでは分からないところもあり、これで安心できます」と語っていた。

仲村くんが12位

ハワイ・ホノルルマラソンで

快調にホノルルを走る仲村くん

十二月九日（現地時間）、オアフ島でハワイ・ホノルルマラソンが行われた。市内から参加した仲村真哉くん（国分寺台五丁目、13歳）が「十三―十九歳の部」に参加し約二百人中十二位という好成績を収めた。

仲村くんは去年のハワイ・ホノルルマラソンにも出場し、「七―十二歳の部」で優勝しているが、今年は去年の記録を二十分縮め、三時間二十三分四十二秒で約四十二㌔㍍を走破した。

当日は、十二㌔㍍地点からマラソン歴三十年の日本人男性が一緒に走ってくれて、疲れた仲村くんを励ましたり、風上を走って風よけになってくれたりしたそうで、仲村くんは「いろいろな人たちと巡り会えたことと、記録にこだわらないで完走できたことがうれしい」と語っていた。

校旗と校歌が完成

去年四月に開校した今泉中で

五十九年四月に開校した今泉中市長（右）から校長の手に

学校（竹内清校長、生徒836人）の校旗と校歌が完成し、校旗については十二月四日に市長室で左藤市長から竹内校長に手渡された。

校旗は地をえんじにし、校章を金・銀の糸を使って刺しゅうしたもの。校章のデザインは同校美術科教諭の大寺博さん㈢と大槻幸広さん㈡が担当。タブノキの葉を六枚配置し、輪をかけて真ん中に「中」の字を入れた。タブノキは同校のふるさとの森の主要樹種、また葉の六枚は市で六番目の中学校であるところから、そして輪は友情の輪を表わしている。

校歌は横浜国大名誉教授の桜井祐二さんが作詞、同大講師の梶野健二さんが作曲。桜井さんは同校を何度か訪れて詩想を練ったという。また梶野さんはメロディを中学生が歌いやすいものにと配慮して作曲されたそうだ。

この二人を迎えて、十二月十四日に市文化会館で発表会を行ったが、校旗も校歌も評判は上々だった。

おそばの定期便

市そば商組合が中心荘を訪問

老人ホームのお年寄りに本物の味を味わってもらおうと、市そば商組合（富樫和雄組合長、24人）が十二月六日、上今泉にある中心荘（浦野正永園長、135人入所）を訪れ、お年寄りや職員にうどん、そばをふるまった。

寒くなっておそばが一段とおいしくなるこの時期に同組合が毎年行っているもので、今回で七回目。

当日は、国分寺台二丁目の更科広栄店で、おかめ、天ぷら、花巻の三種類二百食分を準備して、中心荘の調理室へ。昼食時の午前十一時半になると続々とお年寄りが食堂に入ってきた。お互い顔なじみの人もいて「待ってたよ」「おばあちゃんあい変わらず元気だね」と声を交わす場面もあった。

中心荘には体の不自由な人が入る特別養護老人ホームが併設されており、そちらへは出前も行った。

おばあちゃん、味はいかが

声のひろば

このコーナーに投書される方は、住所・氏名を明記し、海老名市役所秘書広報課へ。

個性豊かなまちづくり

昭和三十年以後の高度成長期にふくれあがった都市には、世界に誇ることのできる建築物や生活の利便性はあるが、何の調和もなければ魅力もない。まして、人間の生活の場としての都市づくりはされていない。

「ふるさとえびな」も、都市化の波に浸食され、われわれが生きるために欠くことのできない自然の緑は残り少なくなってしまったが、清水寺公園の周辺には、まだ美しい自然林がある。

標高六十㍍のこの地から、秀峰大山をはじめとして丹沢の山々を望む景観、相模川対岸の夜景は価千金である。

清水寺公園を中心に、森林公園を造成して、公害に悩む市民の憩いの場、散策の場とすることは、市民生活に大きく役立つのではなかろうか。

また、海老名には、聖武天皇の詔によって建立された相模国の金光明四天王護国之寺（僧寺）、法華滅罪之寺（尼寺）の遺跡がある。元禄十二年（一六九九）、現在の地に移築された清水寺（国分尼寺にあった湧河寺）には、阿形（あぎょう）、吽形（うんぎょう）の仁王像、国の指定重要文化財である千手観音が安置されている観音堂（旧清水寺の本堂、千手観音像は宝蔵庫に安置）があり、堂内には歌川国経の絵馬もある。

桜の季節にはこんな光景も

徒歩十五分で、上今泉の常泉院へ。その上の秋葉山には古墳がある。

これらを一環とした、個性豊かな観光地としての都市づくりを考えてもよいのではなかろうか。

これらは、お金のかかる事業ではあるが、地権者の理解と協力を得て、積極的な施策が望まれる。市民は一日千秋の思いで期待している。

（国分　武藤文雄）

ご協力に感謝

十二月四日から九日までニチイ海老名店文化ホールで海老名市美術協会主催の年末チャリティー展を開催しました。

これは会員一同が自分たちのできることで社会奉仕の一助になるものをと企画したものです。市教育委員会並びに市社会福祉協議会のご後援をいただき、盛会のうちに終了できました。純益金は十七万九千八百二十円になり、さっそく市社会福祉協議会にお届けしました。

これも一重に市民のみなさんの多大なご協力によるものと心から感謝申し上げるとともに、今後とも本協会の活動にご指導ご支援をお願い申し上げお礼といたします。

海老名市美術協会

海老名むかしばなし

第105話　春を運んできた遊芸人

大正の初期、正月も松の内を過ぎるころとなると、毎年きまって遊芸人が門付けをして回り、農村にささやかなうるおいを与えたものだった。

まずはじめはにぎにぎしく三河万歳が乗り込んでくる。素襖（すおう）姿で折烏帽子（おれえぼし）をかむり扇子を持つのが太夫さん、大黒頭巾（だいこくずきん）をかむり鼓を打ち鳴らすのが才蔵さん、二人は面白おかしく歌を歌いながら舞った。祝福芸というのだそうだが、そのしぐさが愉快なので、何やらわめきながら突然座敷へ上がり込んでもとがめ立てもせず、なにがしかのお金を包んで差し出したものだ。宿は大谷の福寿院ときまっていたそうだ。

十五日ごろになると座間から太神楽（だいかぐら）の一行がきた。蛭間座（ひるまざ）といい、家族だけで一座を構成しているらしかった。いつも芸に使う七つ道具を載せた車を引いてきた。

最初は笛、太鼓のはやしに乗って獅子（しし）舞をした。これは獅子頭をかむり幣束を振り回して厄払いや悪魔払いのため一人で舞った。祝儀をはずんだ家ではこの外いろいろの曲芸を演じた。三味線、太鼓、鐘の音曲入りで、曲毬（きょくまり）、ばちさばき、皿回し、掛け合い漫才めいた芸もした。

私たちはこの一座がくるとこま回しなどそうそうにやめてその後をつけて行った。それほど子供には魅力があった。

月の内に猿回しもきた。猿の音読みが「去る」に通じるのを嫌って、その反対の「得て」と呼び、縁起のよい動物にしたのだという。「エテ公」とはいまでもいう。猿使いは猿の腰につけたひもを持ち、祝い言葉を述べながら踊らせた。隣から隣へ移動する時は、猿は猿使いの背にひょいと乗った。そしてきょとんとした顔付で人間様よろしく背負われていた。その姿が今でも印象に強く残っている。

この外、俵ころがしもやってきた。四十㌢くらいの福俵にひもをつけ、それを座敷へ放り出してころがし、次にこれを引っ張り寄せる。このようなことを繰り返す単純な芸である。その動作に合わせて次のような歌を唱えた。

あーらめでたいなめでたいな
ひところがしが千だわら
ふたころがしが万だわら
……木明……
お蔵にや俵がみちみちて
お家ますます御繁昌
あーらめでたいなめでたいな

このころの農村はさほど豊かではなかったが、正月は人の心もなごみ、どこの家でもこれら諸芸人を暖かく迎えたものだった。

（池田武治氏＝国分＝から寄稿されたもの）